

## 1. 局地的な豪雨災害への備えを問う

7月5日に発生した九州北部豪雨では、福岡県朝倉市で24時間雨量1000ミリという尋常ではない雨量が狭い範囲に集中したことが、気象庁のレーダーの解析により判明している。加えて国土交通省が流木の総量を約17万トンと推計し、大量の土砂と流木が中小河川をせき止め川が溢れることにより、死者36人・行方不明者5人、浸水や一部損壊を含めた住宅被害が2,300棟を超えるという甚大な被害につながったとのことである。

一方、神奈川県内でも8月1日、局地的な大雨に見舞われ、県央や湘南地域を中心に河川の増水が相次ぎ、5つの河川が氾濫危険水位に達し危険な状況になった。

かつて豪雨といえば夏場の西日本というイメージがあったが、近年は東北や北海道も見舞われている。地域や時期は確実に広がっており、いつ、どこで起きても不思議ではないといえるが、そうした変化に人々の意識が追いついていないとの識者の指摘もある。

そこで、局地的な豪雨災害へのわが町の備えとしてハード面とソフト面を組み合わせた対策が必要と考えるが、現状と課題を町長に具体的に伺いたい。